

平成二十八年度 夏季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「夏」

期間 平成二十八年五月一日～平成二十八年七月末
投句数 二、九八七句

特選三句

天

乗り合わす少年達の日焼かな

神奈川県横浜市港南区

金子きよ

地

彩を秘め明日開かんと鉢の蓮

東京都渋谷区

小熊紀子

人

時鳥鳴くや御堂の杉木立

神奈川県逗子市

森澤謙二郎

入選句

一般の部

滴れる山懐の観世音

東京都武蔵野市

池田宏治

江の島へ色とりどりやヨットの帆

東京都大田区

荻野操子

十一面観音包む春の闇

神奈川県横浜市南区

岸本隆雄

円覚寺坐禅道場夏来る

千葉県千葉市中央区

国吉辰俊

老鶯や谷戸の訝のすぐ返る

神奈川県三浦市

佐原寛

円覚寺坐禅三昧蟬時雨

神奈川県横浜市戸塚区

芝田和男

シャッターチャンス江ノ電と夏空と

東京都練馬区

碩真由美

筍の匂ふ竹林巡りけり

東京都町田市

竹内弘

ぼんぼりの等間隔に風涼し

神奈川県横浜市港南区

田阪武夫

遠泳の殿迎ふ拍手かな

東京都杉並区

野村親信

つつじ咲く日本遺産の都かな

神奈川県三浦市

秦 孝浩

白南風の海を眺むる椅子ひとつ

神奈川県三浦市

兵藤逸子

新緑の風 潔し 円覚寺

宮城県仙台市太白区

福土カツ子

虫干しの子規短冊に力あり

埼玉県狭山市

古谷彰宏

江ノ電の駅舎をくぐる夏燕

神奈川県茅ヶ崎市

水野秋夫

(順不同)

入選句

子どもの部

大仏にかぶせてあげたい夏帽子

神奈川県横浜市中区

石川瑞貴

鎌倉の歴史感じて秋を待つ

埼玉県さいたま市

井手翔也

あじさいに雲の切れ目の陽がそそぐ

神奈川県横浜市保土ヶ谷区

木村幸奈

紫陽花が鎌倉の道輝かす

神奈川県横浜市神奈川区

小出くらら

万緑の鳥居の中でみくじ引く

東京都西東京市

澤匠

鎌倉の新緑映える切通し

神奈川県川崎市宮前区

杉山大知

アジサイは見るだけでなく絵書きたい

東京都世田谷区

鈴木雄斗

鎌倉や見渡すかぎり夏木立

神奈川県横浜市青葉区

澄田亜莉子

銭洗い涼しい音は水の音

神奈川県横浜市保土ヶ谷区

高橋舞夏花

青い海白い砂浜汗にじむ

神奈川県横浜市戸塚区

高橋幸歩

つつじ見て大切なこと発見す

神奈川県座間市

濱谷優里

竹やぶに光さしこみ五月晴

神奈川県横浜市保土ヶ谷区

前田彩花

夏の山見下す先は由比ヶ浜

東京都大田区

三浦一心

汗かいてのぼる石段こけの寺

神奈川県横浜市青葉区

山本彩菜

鎌倉の歴史を囲む夏の山

東京都新宿区

渡邊智哉

(順不同)